

平成27年 6月 定例会（第2回）会議録（抜粋）

○2番（青山雅紀君） 皆さんこんにちは。公明党千葉市議会議員団の青山雅紀でございます。

私自身にとりましては初めての質問であり、非常に緊張しておりますが、公明党の議員らしく元気いっぱいにさせていただきます。市長並びに執行部の皆様、先輩同僚議員の皆様におかれましては、何とぞよろしくお願い申し上げます。

それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

初めに、千葉市の魅力発信における取り組みについてお尋ねいたします。

現在、各地域においては、我が町の魅力を高める施策づくりに知恵を絞り、さまざまな活動や取り組みが開始されております。

本市も都市部を初め、緑に満ちた地域など、千葉市の魅力を広く伝えながら、多くの外国人も含め、今後どのように人を引き寄せていくかが大きな課題であり、さらに幅広い重層的な施策の展開が必要かと考えられます。

本市は、緑に包まれた美しい自然と歴史、芸術、文化など、多くの地域資源にも恵まれていますが、2014年度の民間機関における市町村別の住みたい町人気ランキングベスト100では、本市は44位となっており、認知度や魅力度、イメージなどの地域ブランド調査では、ベスト100位にも入っていないのが現状であります。

しかしながら、成田空港などや東京ディズニーランドなど、近接する優位性もあり、本県を訪れる外国人観光客は増加しており、本市が誇る地域資源を効果的に発信し、検証、見直しを進めていけば、認知度や魅力度のイメージも大きく改善されることと考えます。

さて、千葉県では県民の自然との触れ合い志向や、健康への関心の高さを背景に、県民の森として郷土の自然を守り、多くの県民が森林と親しみ、森林を知り、その恵みを受けながら、自然とともに生きる心の創造を目指して、県内に6カ所森林スポットとして選定をしております。

この県民の森においては、セラピーコースを設置していますが、6カ所だけでは身近な森林を活用するには不十分であるとして、別に療法的活動に適している森林を健康と癒やしの森として30カ所選定しております。その健康と癒やしの森30選の中には、中央区の青葉の森公園と、仁戸名市民の森、若葉区の泉自然公園、緑区の昭和の森公園、花見川区の柏井市民の森の5カ所が選定されています。森林浴の健康効果としましては、ストレスホルモンが減少する、副交感神経活動が高まる、交感神経活動が抑制される、収縮期・拡張期血圧、脈拍数が低下する、心理的に緊張が緩和し活気が増す、NK、ナチュラルキラー細胞の活性が高まり免疫機能が上がる、抗がんたんぱく質が増加する、こうしたことが考えられ、健康増進への効果も大きいものと考えております。

そこで伺います。

市内5カ所と健康と癒やしの森指定実績を踏まえ、健康と癒やしをテーマとして、樹林地や公園緑地を活用し、本市の豊かな緑の魅力を情報発信してはどうかと考えますが、当局の考えをお聞かせください。

次に、千葉市のキャラクター戦略につきまして伺います。

千葉県内には、国体のマスコットから千葉県のマスコットキャラクターに昇格したチーバくんに見るような、市町村公認のマスコットキャラクターが50個近くございます。また、事業ごとに存在する市町村のイベントキャラクターを含めると130個近く存在し、各市町村の特産品の宣伝や町のイメージアップを図る取り組みが商店街、観光協会などで地域に根差した活動を展開しております。

ところで、千葉市におけるゆるキャラは、昨年7月に発表されました加曽利貝塚をモデルにしたかそりーぬを初め、ちはなちゃん、風太くん、へらそうくん、モリ夫くん、ライモン君、カワウソ一家などの7つのゆるキャラが存在しています。皆さん御存じでしょうか。

改めて、それぞれのゆるキャラを簡単に紹介しますと、ちはなちゃんは、平成15年に市の花オオガハスや、花の都・ちばのPRのために全国からデザインを募集し、市民投票によりキャラクターとして誕生しました。名前は、千葉市の花なのでちはなとし、市の花オオガハスの妖精をイメージさせるキャラクターとなっております。

かそりーぬは、昨年平成26年に国の特別史跡化を目指している加曽利貝塚の魅力や、重要性について多くの方々に知ってもらうのが目的で誕生しました。名前のかそりーぬは、遺跡の名称加曽利、プラスモチーフは犬であります。

風太くんは、平成21年に千葉市動物公園のイメージや運営の向上を目的として誕生し、動物公園の人気動物であるレッサーパンダの風太をキャラクター化しています。

へらそうくんは、平成19年、焼却ごみ3分の1削減のビジョンに掲げた千葉市一般廃棄物ごみ処理基本計画の推進を、市民、事業者、市の3者が協働して取り組むためのシンボルとしてキャラクター化されたものであります。

モリ夫くんは、平成21年に口座振替納税の促進策の一環として、口座振替未加入者の関心を高めるとともに、市税への親しみやすさをアピールすることを目的に考案されました。名前の由来は、コウ座振替をモリ上げよう！のキャッチフレーズから、昼間に銀行等で税金を納められず口座振替納税を利用しているという設定で、夜行性のあるコウモリをキャラクターとしています。

ライモン君は、平成12年3月に千葉競輪場で開催する日本選手権競輪のPRと、新規ファンを獲得するためのPR手段の一つとしてキャラクター化され、活用されました。

カワウソ一家は、親しみやすいキャラクターを通じ、市民の皆さんに下水道に対する理解と関心を高めてもらうことを目的に、平成7年に誕生しました。名前の由来は、下水道の普及により、きれいな川や海が復活することを願い、清流に住むカワウソを下水道キャラクターとし、名前は公募により決定しました。

以上、7個の中で私はちはなちゃんとかそりーぬについては知っていましたが、千葉市にこんなにゆるキャラがあるとは存じ上げておりませんでした。また、地域の皆さんにも先日聞いてみましたが、ほとんどの方は知らないようで、恐らく市民の皆さんも余り御存じではないのではないかなと思われま。

そこでお伺いします。

事業ごとのキャラクターがありますが、その事業の推進に当たって、事業キャラクターが効果をどのように発揮しているのか。また、そのキャラクターの認知度はどうなのか、お聞

かせください。

次に、安全・安心のまちづくりについて伺います。

1 番目は、防犯カメラの設置です。

千葉市内における平成 26 年度の街頭での犯罪発生数は 5,915 件で、前年の 25 年度と比較しますとマイナス 1,337 件と減少傾向にあり、関係者の努力の成果も認められますが、まだまだ取り組みの強化が求められているところでございます。

こうした中であって、安全・安心のまちづくりは市民生活に直結する課題であり、犯罪の防止や抑止のためには、防犯行動が自然にとれる意識づくりや、犯罪が起こりにくい環境づくり、そして、互いに支え合う地域づくりなどが必要であり、各地域では知恵を出し合い、地域住民との協働で、さまざまな取り組みが行われております。

例えば、若葉区におきましては、防犯ウォーキングに力を入れております。スタートした当初は、地域住民の方も反応も薄かったと聞いていますが、今ではウォーキングパトロール隊の活動も多くの人に認知され、気軽に声をかけてくださる人もふえ、地域、自治体、警察等との協力体制も構築されつつあると伺っております。

そうした中であって、市民からの要望として増加傾向にあるのが防犯カメラの設置でございます。特に、小中学校へ通学している児童生徒の保護者からの要望は多く、各自治体においても積極的に進められてきております。

そこでお伺いします。

一つに、防犯カメラの設置に関しては、これまで本市においてどのように進めてこられたのか。また、設置された箇所については、どのような効果があらわれているのかお伺いします。

二つに、学校における防犯カメラの設置状況並びにその成果と課題について、お尋ねいたします。

2 番目は、通学路の安全対策についてお伺いします。

近年、児童生徒の通学途中に車が突入し、死傷者が出るなど痛ましい交通事故が多発し、通学路の安全対策が大きな課題となっております。また、自転車における改正道路交通法が 6 月 1 日より施行となり、歩行者妨害などの違反を危険行為と定め、自転車ルールも一層厳しくなりましたが、通学時における歩道における自転車との接触事故も増加してきております。

松山市では、通学路における交通事故から児童を守るために、各市立小学校から報告がなされた約 500 カ所のうち、学校の交通安全指導や、地元での見守りなどソフト面だけでは十分に安全が確保できないとして、何らかのハード対策が必要と考えられる 290 カ所に対し、関係機関が連携して、通学路の安全対策に取り組み、さらに P D C A サイクルを活用し、通学路の安全性の向上を目指していると聞いております。

ここは、若葉区の若松町の通学路でございます。歩道もなく、道幅も狭く、車の通行量が多いため、保護者の皆さんからは路肩のグリーン化を強く要望されている箇所でございます。

そこでお伺いします。

千葉市においても、通学路の安全対策の改善強化を図る取り組みが実施されているとお聞

きしていますが、通学路の安全対策についてはどのように調査し、対応を図っているのか、また、今後の計画についてお伺いします。

3番目に、防災対策についてお伺いします。

4年前の東日本大震災では、千葉市におきましても、液状化による大きな被害を受け、近年では記録的な大雨や台風などにより、九州、近畿、東海地方を中心に、浸水害や土砂災害なども発生しております。

また、最近では先月の29日に、鹿児島県の口永良部島で爆発的な噴火が発生し、住民は隣接する屋久島に避難するという状況になっており、さらに30日には東京都小笠原諸島を震源とするマグニチュード8.1の大地震がありました。このような大災害発生時には、まず自分の身のみならずから守る自助、次に、自分が無事であった場合、周辺の人と互いに助け合う共助、そして、災害に被災した住民を自治体が助ける公助という、自助、共助、公助の必要性は、防災訓練などで教わりますが、いざ巨大地震等が発生した場合、自治体自体が壊滅的な被害を受けることも考えられ、被災地域によっては公助は期待できない場合も大いに予想されます。

防災力の強化については、これまで議会でも多くの議論や提案がされてきておりますが、いざというときのために各地域において、自分たちの地域は自分たちで守れるような防災訓練を積み重ねることが非常に重要でございます。

また、千葉市内には避難場所は334カ所あると聞いていますが、想定される災害規模を超えることがあることも考えておかなければならず、さらに地震によっては、火災や液状化、土砂災害の被害が発生することも想定し、避難経路についても複数の経路を設定しておくことも必要かと思われまます。

そこでお伺いします。

一つは、災害を想定した避難訓練はどのように行われているのか。また、あらゆる状況下での対策も必要とされるため、学校、自治会、家庭など、各地域における朝、昼、夜間などの時間帯も想定した訓練も必要ではないかなと思っておりますが、当局の考えをお聞かせください。

二つに、小中学校の防災対策についてお伺いします。

学校施設の耐震化は、1校の体育館を残すのみで、現在は非構造部材の耐震化に取り組んでいるところと伺っていますが、平成24年3月には文部科学省から避難訓練の実施、評価、改善までをまとめた学校防災マニュアルの作成の指示を受けていると聞いており、各学校においては取り組みが進んでいることと思っております。

そこでお伺いします。

市内小中学校における学校防災マニュアルの作成の状況と、東日本大震災以降、訓練の内容がどのような変化をしたのか。また、教育における防災対策はどのように進んでいるのか伺います。

最後に、飲料水の確保についてお伺いします。

千葉市には、若葉区の上五反田揚水機場に見るような159本の農業用水に使用する農業用井戸がありますが、水質適合検査に合格しているものもあると聞いております。これらの施設を災害時の飲料水等の確保場所として、有効活用できないかお尋ねいたします。

以上で、1回目の質問を終わります。

御清聴ありがとうございました。御答弁のほどよろしくお願いいたします。（拍手）

○都市局次長（小早川雄司君） 健康と癒やしの森、森林スポットの活用についてお答えします。

健康と癒やしをテーマとして、本市の豊かな緑の魅力を情報発信することについてですが、緑の持つ癒やしの効果につきましても、本市としても認識をしており、平成24年3月に策定した千葉市緑と水辺のまちづくりプランにおいて、その効果を紹介し、身近な緑の散策を推奨するなど、広く市民に知っていただけるよう努めているところであります。

本年5月17日には、泉自然公園において初めてとなるピクニックフェスタを開催し、緑の中でバーベキューを楽しむなど、自然に溶け込むイベントとあわせ、森林のセラピー体験を実施しております。

樹林地や公園緑地などの緑とオープンスペースの持つ多面的な機能のうち、利用者が最も実感しやすいものの一つとして、緑が健康増進や癒やし効果をもたらすことについて、広く市民に理解が得られるよう情報提供に努めるとともに、これに着目した新たな公園活用策として、条件の適した公園などにおいて、セラピーコースなどを検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○総合政策局長（川上千里君） キャラクター戦略についてお答えします。

まず効果についてですが、事業の理念等を視覚的に訴えることで、効果的にPRができること、またPRイベントに着ぐるみが登場することで、親しみのある雰囲気づくりによる参加者の増加につながるなどにより、事業目的の達成に寄与しているものと考えております。

次に、キャラクターの認知度についてですが、定量的な把握はしておりませんが、いずれのキャラクターもそれぞれの事業の啓発やPRのための手段の一つとして作成しているものであり、キャラクターを通じて事業を理解してもらうことや、施設を広く知ってもらうことを最終的な目標としており、着ぐるみの貸し出しや公用封筒への印刷などにより、市民の目に触れる機会をふやすよう努めております。

以上でございます。

○市民局長（金親芳彦君） 防犯カメラの設置のうち、所管についてお答えします。

防犯カメラの設置のこれまでの進め方と設置の効果についてですが、市内最大の繁華街で犯罪が起きやすい中央区富士見二丁目地区において、犯罪の抑止と犯罪時における迅速な対応を図るため、平成15年度より順次防犯カメラ32台を設置するとともに、本市と千葉中央警察署及び富士見商店街協同組合が協定書に基づき、管理運営しています。

また、設置の効果についてですが、富士見二丁目地区では犯罪の減少が見られるなど、一定の効果があるものと認識しており、その効果は犯罪の抑止にとどまらず、犯罪の捜査に関

しても効果を発揮しているものと認識をしております。

以上でございます。

○教育次長（森 雅彦君） 初めに、防犯カメラの設置についてのうち、所管についてお答えします。

学校における防犯カメラの設置状況並びにその成果と課題についてですが、平成19年度から敷地内への侵入や器物破損等の被害が多い学校を中心に設置を進め、昨年度末時点で、小学校26校、中学校34校、高等学校1校の合計61校に設置しております。また、本年度は新たに3校に設置してまいります。

防犯カメラを設置したことにより、侵入等の被害が減少するとともに、防犯カメラ作動中の看板の設置により、侵入等に対する抑止にもつながるなど一定の効果を上げておりますが、今後も必要性の高い学校に早期に設置できるよう、関係部局と協議してまいります。

次に、通学路の安全対策についてお答えします。

通学路の安全対策の調査方法とその対応及び今後の計画についてですが、市内小学校から毎年報告される通学路における危険箇所、改善要望箇所に基づいて、教育委員会、学校、道路管理者、交通関係者等による合同点検を実施し、緊急性や危険度の高い箇所について、路面表示や防護柵、標識等の設置を関係機関で実施しております。

また、今後の計画につきましては、昨年11月に制定した千葉市通学路交通安全プログラムにおける、安全の確保のためのPDCAサイクルを繰り返し実施することで、さらなる安全対策を図ることとしております。なお、本年7月までに27校を対象に合同点検を実施してまいります。

次に、小中学校の防災対策についてお答えします。

まず、学校防災マニュアルの作成状況と、東日本大震災以降における訓練内容の変化についてですが、各学校においては平成24年3月に改定した学校総合防災マニュアルでは、学校防災対策本部を設置、職員の役割と分担を一層明確にするとともに、勤務時間内の職員の段階的な参集について明記するなど、より実践的なマニュアルとなっております。

訓練内容につきましては、従来の火災や地震を想定した訓練に加え、津波や液状化を想定した避難訓練、保育所やマンションなど、地域と連携した訓練を行っております。

また、判断力を育成するために日時を知らせずに行うブラインド型の訓練など、学校や地域の実情に応じた実践的な訓練も行っております。

最後に、教育における防災対策についてですが、各学校では児童生徒が危険を予測し、自他の安全に配慮した行動ができるよう、教育活動全体を通して防災教育の充実を図っており、そのため教職員は防災に関する先進的な実践事例等をもとに、研修に取り組んでおります。

以上でございます。

○総務局長（志村 隆君） 防災対策についてのうち、避難訓練についてお答えします。

災害を想定した避難訓練はどのように行われているのか、また、各地域における朝、昼、夜間の時間帯を想定した避難訓練も必要ではないのかにつきましては、関連がありますので、あわせてお答えします。

災害から命を守るためには、発災後、避難行動の開始と適切な避難場所、経路の選定等についての確かな状況判断が必要なことから、日ごろから行う避難訓練は極めて重要であると認識しております。

地域におきましては、町内自治会や自主防災組織が行う初期消火訓練や、応急救護訓練等の防災訓練の一環として避難訓練が実施されており、また、九都県市合同防災訓練では、防災関係機関が行う訓練のほか、市民が実際に遭遇する事態を想定した津波避難訓練、帰宅困難者対応訓練等を実施しており、避難行動要支援者の安否確認や避難誘導訓練、避難所の開設運営訓練などもあわせて実施しております。

今後とも、地震災害や土砂災害等各種災害に備えて、さまざまな訓練の実施が考えられますが、夜間の避難訓練の実施などを含め、具体的な地域からの要望に対しまして、引き続き必要な支援を行い、訓練の充実に努め、地域防災力の向上を図ってまいります。

以上でございます。

○**経済農政局長（鎌田 栄君）** 防災対策についてのうち、飲料水の確保についてお答えします。

災害時の飲料水等の確保場所として農業用井戸を有効活用することについてですが、本市では平成8年に災害発生後の市民生活の早期安定を図ることを目的として、水質検査の適合など、一定条件を満たしている農業用井戸を所有する土地改良区などと、災害時における応急農業用井戸水供給の協力に関する協定を締結しております。

現在、11団体、18本の農業用井戸の活用が可能となっており、今後も有事に備え、協定に基づき水質の点検などを行ってまいります。

以上でございます。

○**2番（青山雅紀君）** 御答弁ありがとうございました。

2回目は、何点かについて質問をさせていただきます。

ただいまキャラクター戦略についての御答弁をいただきましたが、各事業ごとに存在するキャラクターは、各事業への理解と事業の推進を目的に活用されていることを理解いたしました。今後も市民に認知されるよう、引き続き事業の理念を含めたアピールの推進をお願いします。

あわせて、千葉市の魅力発信に関しましても、都市キャラクターを活用すべきではないかと考えます。先ほども紹介しました、ちはなちゃんは、花の都・ちばのキャラクターとして、市民公募で選ばれた市民の間にも定着しているマスコットキャラクターであります。改めての提案ですが、千葉市の都市キャラクターとして積極的に活用してはと思いますが、いかがでしょうか。当局の考えをお伺いします。

次に、現在都市アイデンティティーの確立に向けて、鎌倉幕府の成立に貢献した千葉氏について光を当てようとしております。

しかしながら、千葉市は他市からの転入者も多く、市民の中でも千葉氏についての認知度はまだまだ低い状況にあらうかと思われまます。そうした中で、千葉市の市章にも表現されている月星紋章をデザインにした、例えば、ちばうじくんと名づけるようなゆるキャラをつく

り、千葉市の都市マスコットとして、市民や市外に対し広くアピールしてはどうかと考えます。千葉氏のキャラクターをつくることについての当局の考えをお伺いします。

次は、防犯カメラの設置に関してです。

尼崎市では、今年度において場所を変えて設置できる移動式防犯カメラの設置を予算計上しています。同市では、昨年4月より市バスのドライブレコーダー画像を警察に提供する協定を結んだところ、市内に主要5駅の半径500メートル以内で起きたひったくり件数は、協定締結前と比べ、約4割減少したとのことであります。

また、今回の移動式防犯カメラは、バスの通らない細い路地へ導入し、犯行現場を撮影するだけでなく、容疑者の逃走経路確認にも役立てることを目的として、主要駅周辺の犯罪抑止につなげる取り組みがスタートしております。

そこでお伺いします。

犯罪多発地域や駅前等に積極的、計画的に防犯カメラの設置を推進すべきと考えますが、いかがでしょうか。当局の考えをお聞かせください。

次に、通学路の安全対策に関しましては、歩道が設置できない道幅の狭い通学路について、路肩をグリーンにカラー化する取り組みが実施されております。この取り組みについては、ドライバーの歩行者に対する注意喚起が高まるため、保護者からは大変に喜ばれております。

そこでお伺いします。

これまで通学路における路肩のグリーンカラー化は、どの程度まで進んでいるのか。また、今後の取り組みに当たっては、必要な整備箇所や距離等を把握し、何年で整備するのか、どの地域を優先的に進めていくのか等の計画を立てた上で、早急な取り組みを願うところではありますが、いかがでしょうか。当局の考えをお聞かせください。

次に、防災対策に関してお伺いします。

横浜市において、小学校入学時に児童用防災ヘルメットを配備し、地震発生時の移動、落下物等による安全性の向上に力を入れていると聞き、先日横浜市に伺ってきました。

横浜市によりますと、災害時の安全性の向上と強化を図るため、平成26年度から小学校及び特別支援学校の新1年生を対象に、保管の際のスペースや教育環境などを考慮した折り畳み式の頭巾つきの防災ヘルメットを配備し、平成26年度は1年生の児童数分及び27年度に新1年生として入学する児童数3万3,328人分を配備し、平成27年度は28年度に新1年生として入学する児童数3万3,809人分を配備予定しています。

また、先日川崎市にも伺ってきました。

川崎市では、災害時に児童生徒を安全に一時保護する際に必要となる児童生徒用の非常食と飲料水を、地域の避難所としての備蓄品とは別に、生徒用の防災備蓄品を平成24年から25年にかけて、市内の全ての小学校、中学校、高校、特別支援学校の全179校に配備されてきました。

そこでお伺いします。

本市における小学校での防災ヘルメット等の配備は、どのように考えておられるのか、お尋ねいたします。

また、川崎市に見るような学校施設における児童生徒用の防災備蓄品については、どのよ

うな取り組みをなされているのか、お聞かせください。

以上をもちまして、2回目の質問を終了させていただきます。

御答弁よろしくお願いいたします。

○総合政策局長（川上千里君） 2回目の御質問にお答えします。

キャラクター戦略についてお答えします。

初めに、ちはなちゃんを千葉市の都市キャラクターとして活用することについてですが、ちはなちゃんは古代のロマンを秘めたオオガハスをイメージしており、本市の花のあふれるまちづくりをアピールするキャラクターとして、広くそのPRにつながるさまざまなイベントに積極的に活用しているところであり、また、同じく古代のイメージとして加曽利貝塚のキャラクターである、かそりーぬとセットでの活用に努めております。

現時点では、特定の事業の啓発やPRを目的としない、いわゆる御当地キャラクターに相当するものの設定は考えておりませんが、今後都市アイデンティティーの確立に向けた取り組みの中で、活用方法等について検討してまいります。

次に、御提案のあった千葉氏のキャラクターをつくることについてですが、千葉氏は中世にさかのぼる本市の成立発展と深くかかわっており、本市の歴史を語る上で不可欠な存在であることから、加曽利貝塚、オオガハス、海辺などと並び、都市アイデンティティーの確立に向けて活用していく地域資源として、大変重要なものであると考えております。

現在、千葉開府900年に当たる2026年を目標年次とする都市アイデンティティー戦略プランの策定を進めており、この中に千葉氏などの地域資源を踏まえて取り組む施策メニューやロードマップを盛り込んでいくこととしております。本市のルーツである千葉氏を市内外に浸透させ、認知度や愛着を高めるための手段の一つとしてのキャラクターの目的、活用方法、期待される効果、競合状況など、アイデンティティー戦略上の必要性について、プラン策定作業の中で検討してまいります。

以上でございます。

○市民局長（金親芳彦君） 防犯カメラの設置についてお答えします。

犯罪が起きやすい地域への防犯カメラの設置についてですが、本年3月に策定しました第3次千葉市地域防犯計画では既に設置している富士見二丁目地区以外への設置について、今後検討することとしております。本市といたしましても、犯罪が起きやすい地域への防犯カメラの設置につきましても、その必要性を十分認識しており、今後他都市の先進事例も参考にし、プライバシーの保護の観点や、費用対効果などを考慮した上で、警察や地元からの意見も聞きながら検討してまいります。

以上でございます。

○建設局次長兼水道局長（永名淳悟君） 通学路の安全対策についてお答えします。

まず、通学路における路肩のカラー化の進捗についてですが、平成24年度から26年度までの3年間で、約12.4キロメートルを実施しております。

また、今後の取り組みについてですが、現在、路肩のカラー化は通学路の合同点検に基づ

き、緊急性の高い箇所を優先的に実施しておりますが、今後は通学路の安全性をより一層向上させるため、幅員などの道路状況を調査し、カラー化が可能な箇所を把握した上で、千葉市通学路交通安全プログラムに基づく点検スケジュールを考慮し、計画的な整備に努めてまいります。

以上でございます。

○教育次長（森 雅彦君） 小中学校の防災対策についてお答えします。

まず小学校での防災ヘルメット等の配備についてですが、本市では軽量で低学年児童でも扱いやすく、平常時は椅子用のクッションとして使用でき、非常災害時にはすぐに身につけられる防災頭巾を奨励しております。防災頭巾で、自分の身の安全は自分で守れるよう初期対応の動作を身につける訓練を行うことにより、自助意識の向上を図っているところであり、現在のところ、防災ヘルメットの配備については検討しておりませんが、今後他都市での実施状況等を調査研究してまいります。

最後に、学校における児童生徒用の防災備蓄品についてですが、昨年2月に全小中学校に帰宅困難児童生徒用の食料として、クラッカーを配備し、帰宅困難時への対応を図っております。

以上でございます。

○2番（青山雅紀君） 御答弁ありがとうございました。

3回目は、所感と要望とさせていただきます。

千葉市の魅力発信のうち、健康と癒やしの森についてですが、穏やかな地形と温暖な気候に恵まれた本市の豊かな緑は、誰もが気軽にかつ安全に四季を通じて森林の持つ癒やしを体験できる非常にすぐれた空間であると思います。

森林は水源の涵養やCO₂の吸収、生物多様性の保全など、存在することだけでもさまざまな機能、効果を有していますが、今後は本市の豊かな緑を積極的に活用していくという視点やセラピーなど、本市にはこれまでなかった新しい楽しみ方を提案し、そしてそれを緑の魅力として、ぜひ発信していただきたいと要望しておきます。

次に、千葉市のキャラクター戦略については、千葉氏のキャラクターをつくることを提案しましたが、プラン確定作業の中で検討していくとの答弁をいただきました。市民からも人気が出るようなキャラクターをつくっていただき、千葉氏を市内外に浸透させるため、効果的に活用していただければと考えます。

次に、安全・安心のまちづくりのうち、防犯カメラの設置に関しましては、積極的に取り組みをぜひお願いしたいと思います。あわせて防犯に関しましては、ほかにもさまざまな対策が必要と考えます。今後市民にも協力をお願いし、さらなる防犯に強いまちづくりのために、取り組みを推進していただきたく、要望いたします。

通学路の安全対策については、路肩のグリーン化について質問をさせていただきました。答弁をいただきましたように、カラー化が可能な箇所を早急に把握し、計画的に整備に取り組んでいただきますようお願いいたします。

次に、防災対策についての避難訓練に関しましては、九都県市合同防災訓練は、遠くて参

加できない高齢者の方や市民がおられます。また、町内自治会においても、過去避難訓練等を行っていない地域もあり、夜間での避難訓練も含めて、さらなる地域防災力の向上につながる取り組みを要望いたします。

小中学校の防災対策についての防災ヘルメットの配備につきましては、東京都特別区においては公立幼稚園、学校への公費による防災ヘルメットの配備が進んでおり、また名古屋市においても同様の取り組みが検討されていると聞いております。本市におきましても、積極的な検討を要望いたします。

また、学校における児童生徒用の防災備蓄品につきましては、他市では食料及び飲料水を避難者用とは別に保管、確保しており、本市においてもクラッカーだけではなく、飲料水等の対応も必要かと考えます。検討いただきたく要望いたします。

最後に、農業用井戸における飲料水確保に関しましては、水質検査を実施するとともに、活用可能な農業用井戸について、災害時における協定に関する締結の拡大を要望させていただきます。

以上で、私の一般質問を終了させていただきます。

長時間の御清聴、大変にありがとうございました。（拍手）